

SEDIA SMILE BOOK vol.13

水から未来を考える。自然の学びを未来へ活かす。
セディア財団はスマイルプロジェクトを応援しています。



全国小学生かべ新聞コンテスト

「わたしたちのくらしと水」をテーマに、全国の小学生を対象にしたかべ新聞コンテストを開催しています。回を重ねるごとに応募数も増え、第4回のコンテストでは、全国から4,400作品(応募校数:151校)もの応募をいただきました。



高校生が描く明日の農業コンテスト

全国の農業高校に通う生徒を対象に、「わたしはこんな方法で農業を元気にする」というテーマでレポートを募集するコンテスト。第2回は149作品(応募校数:42校)も応募をいただき、優秀賞受賞者にはオランダ研修旅行が進呈されました。



自然体験・野外活動

子どもたちが普段の生活では経験できないこと、自然の中だからこそ学びを体験して、身につけていただくことを目的とした活動も展開。浅間山麓などを舞台に、自然体験活動の推進や指導員の養成などのバックアップも行っています。



私たちは、暮らしに寄り添う企業として、お客さまやお取引先さま、地域の方々の笑顔を想い、さまざまな商品やサービス、ソリューションをお届けしています。「水」「住まい」「農業」の明日を描く、すべては皆さまの暮らしと笑顔のために。

水・住まい・農業の明日へ。そこにセディアシステム
渡辺パイプ株式会社

〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10
浜離宮パークサイドプレイス6階
TEL.03-3549-3111 FAX.03-5565-6374
<https://www.sedia-system.co.jp>


これまで、そしてこれからも。
セディアグループは持続可能な未来への取り組みを進めます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



人と、地域と、社会と、自然との共生を第一に、しあわせを明日へつなぐ取り組みを、セディアグループの水と住まいと農業の事業領域を中心に行っています。

いつも笑顔の側に。
私たちの
働き甲斐。
生活インフラの
最前線で
がんばる人たちの
働き甲斐は
どこにあるのか？



生活インフラの最前線でがんばる、
セディアグループのお客さまやメーカーさまには、
共に成長できる、素晴らしい仕事を重ねて、
次のしあわせへと向かう方がたくさんいらっしゃいました。
今回の「スマイルブック」では、そんなみなさんの仕事や
次へつながる働き甲斐について取材しました。

共に成長できる、
素晴らしい仕事。

いつも笑顔の側に。
私たちの
働き甲斐。

人をしあわせにする。
社会をしあわせにする。
自分もしあわせになる。

今回の「スマイルブック」では、
みなさんの働き甲斐について
お聞きしました。

どのようなときに働き甲斐を感じますか？
みなさんの働き甲斐は、どこにありますか？

Q.

なぜ、そんなに
がんばることができるのですか？

A.

現場の担当を
任せられるんです。

でも、
できなければ
仕事になりません。

だから必死になる。
終われば、
ひとつ成長している
自分がいるんです。





Q.

日々の仕事のなかで、
どんなところに
働き甲斐を感じますか？

A.

この歳になると、
働けるしあわせが
わかってくるんですよ。

働くことが、
生活にも、家族にも、
自分のこれからにも
つながると思うと、
やる気も起こってくる
というものですよ。



Q.

どのようなことを大切にして、
日々、仕事へ
向かっているのですか？

A.

どこまでやるか
ではなく、
そこまでやれるか
どうかが大切。

見えるところより、
見えないところの
精度にこそ、
作り込む喜びは
あるような気がします。

みなさんの働く姿を追ってわかったこと。
誇りを胸に、一所懸命に作り込み
共に、挑み、大変だけど乗り越えた
その先にあるのは・・・、

笑顔！笑顔！笑顔！

次からのページをご覧ください。

働き甲斐は、いつも
笑顔の側にあるものなのですね。

Q.

仕事における理想のチームって
どんなものだと思いますか？

A.

つねに会話にあふれているチームですかね。

きちんとあいさつをして、
いいことも悪いことも報告して、
嬉しいときはみんなで喜び、
困っているときはみんなで助け合う。

なんだか幼稚園で教えられるような
ことですね、すみません。
でも、いちばん大切にしたいことです。

生活インフラという 仕事を誇りに。

なくてはならない仕事。なくてはならない仕事。

それが生活インフラの仕事です。

快適な暮らしを支えるすばらしい仕事、その誇りこそが

働き甲斐へつながっていると、数々の笑顔が教えてくれました。



みんなとつながって、共に。

生活インフラを支える仕事は、数々の人との連携で成り立っています。

会社の仲間であったり、プロジェクトのチームであったり、

お客さまや仕入先の方であったり。

みんなとつながるからこそ、どのような困難も乗り越えて、

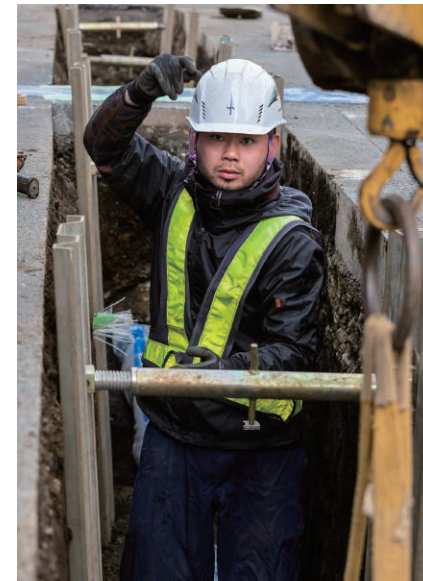
達成感を分かち合うことができるのですね。

成果や喜びを分かち合うところに、働き甲斐は芽生えるようです。



自分のためにがんばる、 成長する。

働くことで自分がしあわせになる。だからがんばれる。だからどんどん成長する。
そんな自分のがんばりが人のために、社会のためになるからこそ、
生活インフラの仕事は素晴らしいと、懸命に働くみなさんの背中が語ります。



働き甲斐は、 いつも笑顔の側にある。

そして生活インフラの現場で働く人の周りには
たくさんの働き甲斐がありました。
そして働き甲斐の側には、いつもたくさんの笑顔がありました。



では、みなさんの働く現場へご案内いたしましょう。

生活インフラを支える、役立つ
誇りを胸に。

158	株式会社折本設備	P16
159	信越ポリマー株式会社	P18
160	石山電気株式会社	P20
161	池田建設工業株式会社	P22

喜びは2倍に、苦しみは半分に、そして未来へ
共に。

162	株式会社LIXIL	P24
163	株式会社i・e・sリビング倶楽部	P26
164	株式会社ノラワークスジャパン	P28
165	ホーコス株式会社	P30

人が、企業が、社会が
成長する。

166	安田設備工業株式会社	P32
167	犬山市シルバー人材センター	P34
168	株式会社ミヤケン	P36

contents

今回ご登場いただいたみなさんです。



そこまでやる。
それが誇り。



158

株式会社折本設備

見ばえよく、すばやく、確かに。
飽くなき追求が「折流」になる。

昭和35年、コスモ工機が日本初の不断水工法を発表し、モデルとなった初めての現場で穿孔を担当していたのが、折本会長。だから折本設備は不断水分岐工法の工事に多大な自信をもっているけれど、それに安住している訳ではない。「生活インフラの仕事はかけがえないものだから、確かな仕事のその先を追求するのが私たちの誇りです」と教えてくれるのは代表取締役社長の折本さん。たとえば防食フィルムの巻き方ひとつにも、改善に改善を重ねたオリジナルの方法を持っている。いい仕事をするのは当たり前。いかにキレイに、いかに早く、そこまです

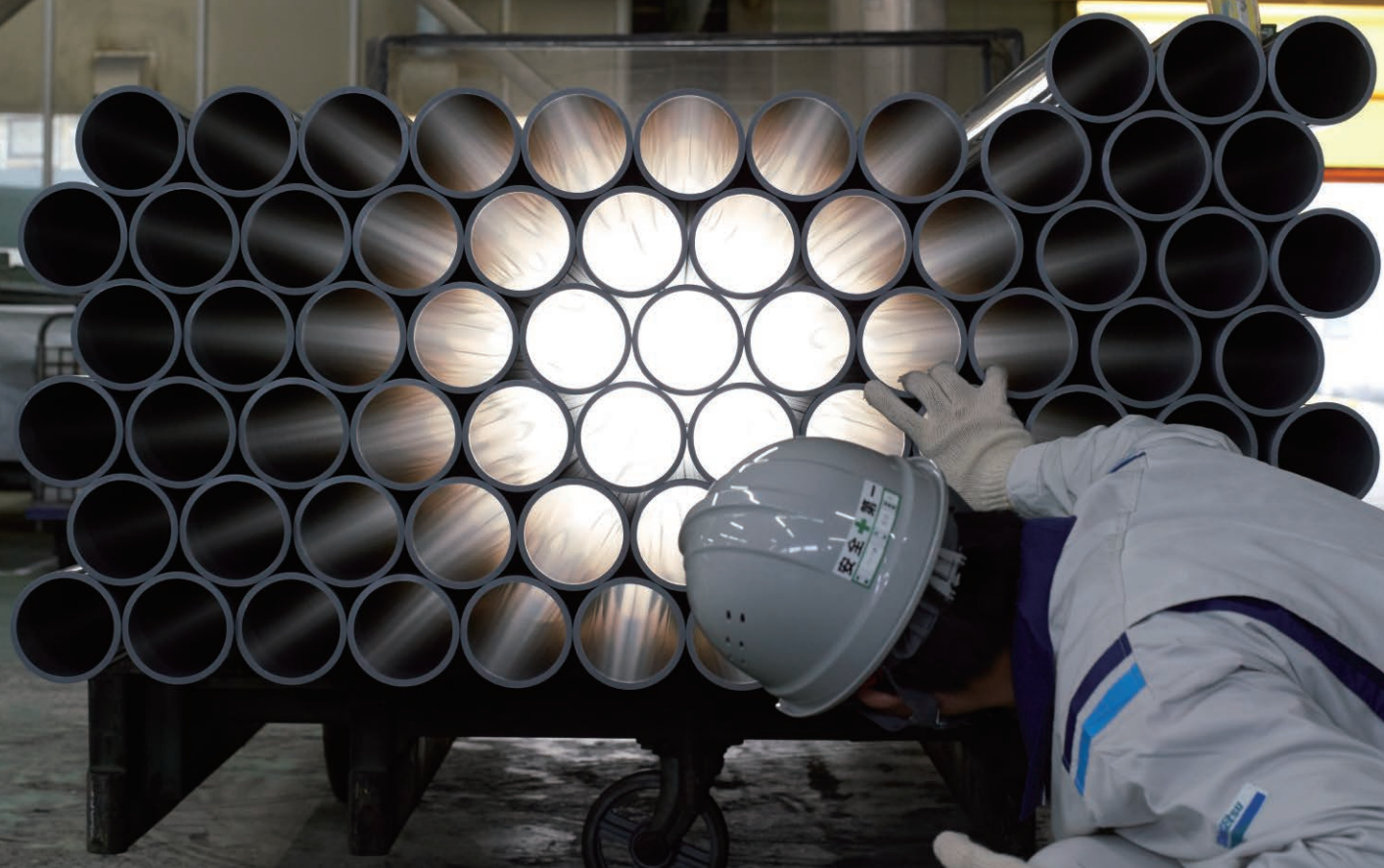
るかまわりの人を唸らせるのが働き甲斐という折本設備。そのためには自社で製品を開発することもある。「たとえば『STOKS』。整流装置とWフィルターの力で水道管穿孔時の切りくずを効果的に除去します。切りくずによるサビを防ぐとともに、周囲に鉄粉を飛散させないので環境への安心も約束できるのです」と折本さんは説明してくれる。確かな仕事から、さらにその先に何ができるかを考えて挑む。その仕事が「折流」という流儀となって若い人に受け継がれていく。生活インフラに従事する人たちの誇りがそこにはある。

左上・上)その日の現場は100mmの水道本管の取替工事。周囲の安全を第一に、テキパキと工事が進んでいく。①連携の良さが折本設備の特長。次に何が必要か、指示をする前にちゃんと用意されている。②③どんな作業をするにもスピードがある。あっという間に作業を終え、次に向かっている。スピードも仕事の質のひとつだと実感する。④現場工事の終了後、折本設備の資材置き場では、先輩が後輩に技術指導をしている。訓練の数だけ現場のスピードがあがっていくのだろう。

株式会社折本設備
代表取締役社長 折本 隆広 さん
若い社員が多いので、よく話し、よく笑い、コミュニケーションをどんどんはかるようにしています。仕事は大変ですが、そこにいかに面白みを見いだすか。それが働き甲斐にも、仕事の質にもつながると思っています。
■事業内容: 土木・水道・管・舗装・造園などの工事全般。
<https://www.ori.ne.jp>



限界を超えようぜ。



159

信越ポリマー株式会社

品質は見えないところに宿る。

ハイテクとローテクの共同作業で信越ポリマー南陽工場の品質は生まれていく。たとえば機械から成形された塩ビ管がでてくる。パイプ課の松田さんは入念に寸法と外観を確認し、最後に片方から光をあてて内部の欠陥を検査。「塩ビ管は水の道となる製品。見えないところの小さな欠陥が大きなトラブルになりますから」と松田さんは言う。管の内側は全品検査する。人の目につかない部分にこそ精度を求めるのが信越ポリマーの仕事なのだ。そういえば信越ポリマーでは製品率99%を

達成しているが、それに満足していない。「挑戦こそ作り込みの原点。99%で満足しない。製品率を100%に限りなく近づけるため、今以上の生産安定性と高品質をめざす。相当な努力が必要となりますが」と工場長の目黒さんは言う。課題を発見すれば、みんなで徹底的に話し込む。改善活動に限界はないと信じて。「100%の品質・安定性へ挑み続ける姿勢こそ、私たちの誇りです」と目黒さんは笑顔で言った。そして働き甲斐もきっとその挑戦にあるのだと思う。



信越ポリマー株式会社
南陽工場工場長 目黒 義孝 さん
弊社では、より安心して製品を使用してもらえよう、グループ全体の品質保証体制強化に取り組んでいます。当工場でも、他の工場で成果を上げている取り組みは、積極的に取り入れています。よりよい製品を、よりよい環境で作り込む。その改善に終わりはありません。
■事業内容:建設資材、包装資材、電子デバイス製品、半導体関連製品などの製造・販売。
<https://www.shinpoly.co.jp>

左上)塩ビ管の向こうから光をあてて管の中を照らしだす。わずかな欠陥も見逃さないよう全品検査していく。上)製品はオートメーションで作られていく。①製造ラインから出てきた製品は、一度集積されて人による検査を待つ。②③外径・厚さ・長さを測ってサイズに狂いはないか、入念に確認する。④キズなどの欠陥がないか、外観も確認する。

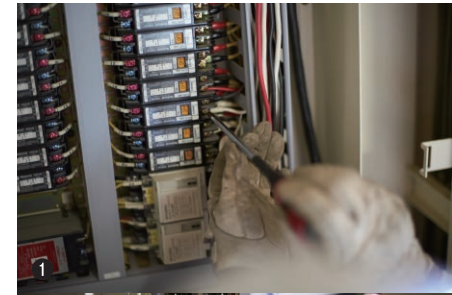
160

石山電気株式会社

明かりと共にある働き甲斐。

「ユーザーズ・マインド・エンジニア」を掲げる石山電気。つねにお客さまを最優先する仕事を重ねている。「それが働き甲斐につながっていく」と取締役社長の石山慎太郎さんは言う。人には褒められたい、認められたい、そして役に立ちたいという気持ちがある。仕事でそれらが叶うところに働き甲斐が生まれるという。「人に喜んでもらえれば素直に嬉しいですね。そのためには決して流さない、毎日これでいいのかを考える、そして最短の方法と最高の結果をめざす。結果としてお客さまが喜んでくれる。お礼を言われて、快くお支払

いいただけるとがんばってよかったという充実感を覚えます」と代表取締役会長の石山経規さんは付け加える。防府市立国府中学校の体育館の現場へ行くと、社員の渡辺さんが最後の確認と微修正の作業を行っていた。体育館の電球をすべて取り換える仕事。そして確認終了後、テストとして点灯。渡辺さんは言う。「どの現場でも最後に明かりがついたときに、私は働き甲斐を感じます。電気の仕事についてよかったとも思います。街や暮らしや社会や人の心に何かを灯す仕事ですから」と笑顔で教えてくれた。



左下)最後の配線作業を行う。渡辺さんの仕事を見守る石山さんの目はやさしくもあり、厳しくもある。下)テストで灯した電灯を確認していく。体育館にやさしい明かりが灯る。①②最短の方法で最高の結果をめざす石山電気の仕事は、すばやく、そして的確だ。③仕事が終わったあとの楽しみは、子どもと遊ぶことと石山さんは笑顔で言う。④セディアグループの平和テクノとの付き合いは長い。痒いところに手が届く対応がありがたいと石山さんは言う。

石山電気株式会社
代表取締役会長 石山 経規 さん
父から私が受け継いで、これからは息子へバトンタッチ。私たちの時代は土日も関係なく働きましたが、息子はプライベートを大切にしますね。それも働き方のひとつ。そこからこれからの石山電気のスタイルが生まれてくるのでしょうか。
■事業内容:住宅、ビル、工場、道路やトンネル照明などの電気工事全般
<http://www.ishiyamadenki.com>



頼られる喜び。
支える意気込み。

161

池田建設工業株式会社

面倒なことほど率先で行う。

「この仕事は素晴らしい。暮らしになくてはならない仕事。万が一、街中や家庭で水が漏れたり、破損したり、何かあったときは一般の方ではなかなか対応できません。困ったときに頼られる仕事でもあります。働き甲斐もありますね」と笑顔で言うのは代表取締役の池田さん。大きな工事だけでなく、小さくて面倒な依頼も率先して行うように徹底しているという。「そしてこの仕事はひとりではできません。どんな素晴らしい技術を持った職人でも材料がなければ仕事はできません。私たちも腕のいい職人やきっちり部材を届けてくれ

る仕入先がなければクライアントの要望には応えられません。だからこそ連携が大切。社内も社外の人もいっしょの大きなチームになって、その現場ごとに最適なメンバーで挑めれば最高の仕事になります」と池田さんは言う。その日、現場監督を務めていたのが野本さん。「まだまだ職人さんに教えていただくことも多くあります。職人さんがいい仕事ができる状況を産み出すのが今の私の仕事と思っています」と笑う。いい仕事は連携から。改めてそのことを実感する現場だった。



池田建設工業株式会社
代表取締役 池田 潔さん
クライアントも大切ですが、協力会社があつてこそ我が社。ですから年に1回、協力会社を招いてパーティーを開催しています。連携を深める機会は多いに越したことはありませんから。
■事業内容:管工事業・土木事業・塗装工事業・コンクリート工事業、他。
<http://www.ikedak.co.jp>

左上・右上) その日の現場は市場の改修工事。広い敷地の中で何か所もの工事が行われていた。①②野本さんは現場をめぐり、協力会社の職人と言葉を交わしていく。そして管理するだけでなく、積極的に手伝うようにしているという。③建物の屋上へ部材をあげていく。④厳しい寒さの中でも、声をかけ合いながらテキパキと仕事を進めていく。

162

株式会社LIXIL

会話から生まれる 協力こそ、財産。

女性が活躍している工場。それがLIXIL須賀川工場を訪れた最初の印象だった。しばらくするとその明るさは女性が多いからではないとわかった。会話が
多いからだ。「声をかけ合う。助け合う。コミュニケーションこそ、品質と働き甲斐の鍵だからです」と語る
のは須賀川工場工場長の荒川さん。仕事だから目標がある。日々のノルマもある。早く仕上げた人は遅
れている部門の人へ声をかけて手を貸す。声をかけることは気づき、気づかうこと。だからこそ手を
貸す気持ちも生まれるという訳だ。その点では管理の人も負けてはいない。日報を書くのに社員の時間
が取られていると知ると、廃止する方法をみんなで考えた。「社員がアプリを開発して、気づいたこと
があればスマホで撮影してコメントを添えてアップする。その場で報告完了。ネットもコミュニケー
ションツールですから」と荒川さんは笑う。「会話が増える環境づくりへの取り組みを続けるのがこの工
場の特長かもしれません。コミュニケーションから生まれる強い協力がスピードにつながり、品質を支
え、それが働き甲斐につながります」。言葉が多いところにはたくさんの笑顔も生まれる。笑顔も心の
言葉だからだろう。



LIXIL株式会社
須賀川工場工場長 荒川 弘 さん
赴任当初は黙々と仕事に取り組む工場でした。まずは私が毎朝入り口で社員を迎え、声をかけることから始めました。会話の多い職場づくりこそ、私の任務と思い、今でも率先して声をかけるようにしています。
■事業内容：トイレ、バス、キッチンなどの水まわり製品と、インテリア、エクステリアなどの建材製品の製造と開発。
<https://www.lixil.co.jp>

誰にでもある、やる気を引き出す魔法の術。

上) みんなでとことん努力する。そして成果を重ねる。そのキーは会話を中心としたコミュニケーションにある。①時間内で作業を終えるために、誰かが困っていたら誰かが手を貸す。②③自主的に行った結果の失敗ならとがめられることはないという。将来の財産になるからだ。そして成功も失敗も共有していく。④日報を廃止して、報告はスマホで。アップされた報告はすばやく共有される。ここではネットが有効に活用されている。



お客さまとも、 セディアグループとも、 共に。

株式会社 i・e・s リビング倶楽部

163

株式会社 i・e・s リビング倶楽部
代表取締役 野口 正則 さん

デザインは机の上だけで学べるものではありません。社員旅行も、できるだけいいホテルに泊まるようにしています。一流に触れる機会を作るためです。日々の中で何に触れるか、デザインはそんなところから育まれると思います。

■事業内容：インテリアコーディネート、リノベーション、リフォーム、他
<https://www.iesliving.com>



ひとりだけの働き甲斐はない。

i・e・s リビング倶楽部は出会いを大切にしている。代表取締役の野口さんは「出会いからすべてが動きだします」と言う。それはセディアグループとの関係にも表れている。セディアグループのホームステイ研修で何度も新人を受け入れている。担当SEである小野さんもそのひとり。i・e・s リビング倶楽部の村山さんは言う。「仕入先とか、お得意先とか、そんな上下の関係ではなく、同じ立場で、いい仕事をするにはどうすれば良いのかを考えるパートナー

であってほしいですね。厳しい条件になるときはありますが、共に乗り切って、良い提案が実現したときは、やったというやり甲斐を感じます」。ひとつの出会いから、人をしあわせにするデザインを見つけて、実現していく。そのために施主だけでなく、セディアグループや協力会社ともいっしょに進んでいく。なるほど、出会いから生まれるしあわせな仕事のカタチ、誰もがめざしたい仕事のカタチだと思う。

上) 提案する商品をセディアグループの担当SEといっしょに探すことも多い。①マンションのリノベーションを中心に展開しているi・e・sリビング倶楽部。インテリアで住む人のスタイルを表現したいという。②電話やメールで済ませることもできるけれど、できるだけフェイス・トゥ・フェイスの打ち合わせを心がけていきたいという。取材当日も真剣に、時に和気あいあいとした打ち合わせが行われていた。③最近、転職してきた小石川さん。仕事の始まりから終わり、その後のアフターケアまで担当できるのが魅力という。





右)社員の高橋さんとふたりで育てていく。おいしさはもちろん、めざすのは利益のする農業モデルを築いて十勝の農業モデルを新たに变えることだ。①高橋さんは中川さんの志に共鳴して参加を決意した。地元の活性化に働き甲斐を感じている。②「白銀の太陽」と呼ばれるマンゴー。1個5万円以上の値が付くことも。③できるかぎり十勝の自然エネルギーを活用した栽培をめざしている。冬の暖房は温泉熱と地元の廃油をリサイクル。夏の冷房は雪を貯蔵して木の皮をかけて保存。夏場でも溶けないという。④ノラワークスジャパンのグリーンハウスの外観。

寒冷地こそ、マンゴーという挑戦。すべては地域のために。

マンゴーは南国の果物という常識がくつがえされようとしている。「宮崎県日南市南郷のマンゴー農家、永倉勲さん(中川さんの師匠)の『北海道だったら12月に作れる』という一言から始まりました。まわりからは可能性マイナス100%と笑われましたが」と笑うのはノラワークスジャパン代表取締役の中川さん。夏場に出荷の最盛期を迎えるマンゴーだが、北海道の気候とハウスを利用して夏と冬の生育時期を逆転。お歳暮商戦で需要が高まる12月に出荷すれば高値で売れるはず。宮崎の農家から万全のバックアップを得て始動。仲間に声をかけ、土地を借り、ハウスを建てた。いざ、挑戦してみると驚きの結果がでた。宮崎産よりも1ヵ月ほど長く樹のうえで実らせるので繊維質が少なく、とろけるような味わい。そして糖度は15度を超えていた。まわりの目が変わり、仲間や資金も集まった。「全員に大反対されましたが、それでも挑んだのは、成功すれば十勝のためになると思ったからです。十勝に産業を生み、活性化させるためにも成功させたい。私たちの働き甲斐はそこにあります」と中川さん。その成功を十勝のみならず、日本中の農家が注目している。

株式会社ノラワークスジャパン
代表取締役 中川 裕之 さん
十勝は生まれ育った地ですから、役に立てればこんな嬉しいことはありません。仲間も金融機関も「お前にじゃない、この会社の志に共感するから協力する」と言われています。仕事を生み、雇用を生み、産業として根付かせたいですね。
■事業内容：マンゴーの栽培、販売。
<https://nora-works-jp.shop-pro.jp>



164

株式会社
ノラワークスジャパン



可能性マイナス100% といわれた挑戦。

共に。

165

ホーコス株式会社

次の人を
思いやる。作り込む。

近くへ。もっと近くへ。
思いやりが
品質になっていく。

「大切にしているのは次の作業を考えて作り込むことです」とホーコスの製造部の川田さんが言えば、工場長の山本さんにはにっこり笑って「社員の場合は次の工程を、工場は出荷先のお客さまを思いやる。先の人の思いを優先して作り込んでいくのが弊社の『顧客第一主義』です」と言う。思いやるには相手のことを知らなければならない。社員同士の距離、工場とお客さまの距離を縮めることが大切になる。だから会話が重要になる。「世間話も無駄口とはとがめません。ささいなことでも言葉を交わし合うということが大切なのです」と山本さんは笑顔で言う。近くへという意味では、ホーコスの新工場では、それまで別の場所にいた開発部と設計部も併設された。「相談も確認もすぐできるので対応のスピードが違います。何より製造現場を理解した上での開発が行えます」と開発部の大内さんが言えば、「無駄な時間やトラブルの軽減にもつながります。つまり余分なストレスがなくなりました」と続けた。思いやることで無駄な作業がなくなる。ストレスのない分だけ集中して打ち込める。思いやりのいい循環は、きっと働き甲斐にもつながっているに違いない。



ホーコス株式会社
工場長 山本 洋司 さん

2018年11月に新工場が竣工しました。夏は暑く、冬は寒いというイメージから脱却して、働く社員を思いやった設計。いい仕事は、いい環境から。製造メーカーの工場も例外ではないはずですから。

■事業内容：建築設備機器、工作機械、環境改善機器の製造販売。
<http://www.horkos.co.jp>

上)作り込むときは、次の工程のことやお客さまが使っているところを思いながら行うという。①ホーコスの製品は、ほとんど「一品一様」。製品ごとの細かな打ち合わせが重要になってくる。②自分の工程も大切。しかし次の工程を意識した作り込みはもっと大切という。③オフィスでもスタンディングミーティングを採用。さっと集まって、集中して終わらせる。決定が遅れるとその分作業時間にしわ寄せがいくからだ。④明るく、清潔な工場では、取材の日も、話し合い、手を貸し合って作業が進められていた。





1



2



3

成長の糧は、 すべて現場にある。

「自分が成長していると思うとき、働き甲斐を感じます」と安田設備工業の古日山さんは言う。社員を成長させるにはどうすればいいのか? 「成長できる環境を作ればよいと思っています。現場へ放り込み、役割を与えるのです」と代表取締役の喜多さんは答える。安田設備工業には、若い人にどんどん現場を任せる社風がある。放り込まれた社員は必死になる。とまどうこともあるけれど、その分、貪欲に吸収する。トラブルすら成長の糧になる。「見守ってくれますが、あれこれ指図されることは少ないのです。自分で考えるようになります」と現場監督を務める佐藤さんは言う。失敗を不安がるより、いざというときは全社でフォローする体制だけを整えていけばいいということだ。確かに大変だけど、現場は成長の糧が詰まった宝箱のようなところ。ひとつの現場をやり終えると、手応えと共に、成長した自分と出会う。だからまた、次の現場へと挑めるのだろう。

右)ひとつとして同じ現場はない。想定外のことが起こることも度々。だからこそ鍛えられるという。①安田設備工業は創業44年。人が成長するから企業も成長する。本管の工事から始まり、現在は設備工事まで広がっている。②現場へ放り込み、いろいろな技を覚えさせる。全社員が多能工になることをめざしている。③成長する自分の他に、完成したときの喜びに働き甲斐を感じるという。そのために今日もがんばるのだ。

安田設備工業株式会社
代表取締役 喜多 美俊 さん

私たちの仕事は甘くないですね。仕事時間は結構長いかもしれません。だからこそ手応えのある仕事を重ねて、成長できる環境を作るのが社員のためであり、社長の役割だと考えています。

■事業内容:住宅設備工事、機械設備工事、管土木工事、他
<http://yasusetsu.com/>



現場という 宝箱へ放り込む。



働く喜びは、
これからだ。



定年後に知る。 働き甲斐は、生き甲斐だ。

シルバー人材センターは全国にあるけれど、土耕や水耕栽培ではなく、特殊フィルムを使った栽培方法でトマト栽培を行っているのは犬山市だけだ。「空いていた土地があり、国も地方創生事業を募っていたので、トマトのハウス栽培で地域農業の活性化を計画したのです。人材は60歳以上のシルバー世代。仕事は月に80時間か10日と区切ってシェアをする。説明会には50名以上の方が参加され、現在20名以上の方が働いていらっしゃいます」と犬山市シルバー人材センター事務局長の堀場さんは教えてくれた。ハウスを訪れると5名ほどの方が働いていた。仕事を見て驚いた。シルバー世代の余技ではなく、本格的な栽培作業だったからだ。農業出身者はひとりもない。役所や企業を勤め終えた人ばかりだった。「正直、こんなにしんどい作業とは思わなかった」と77歳の柴田さんが言えば、「この歳になって試行錯誤を繰り返すとも思わなかった」と68歳の小川さんは笑う。「だけど辞めようとは思わない」と75歳の坪内さんが言えば、「働くことのしあわせを、日々、感じている」と69歳の高木さんは答える。働き甲斐が、生き甲斐になっているのだ。「だからね、仕事のあとの、今夜の酒がうまいんだよ」と77歳の石原さんは笑った。

左)のびる茎を揃え、不要な部分は切り落とし、整理していく。足腰に負担がかかる作業だ。だけどここで手を抜くとおいしいトマトは育たないという。①栽培は大変。だけどおいしいトマトが実ると見える成果があるから続くという。②③土を使わず、薄いフィルムの上でトマトを栽培する。難しい土壌の制御の必要がなく、高品質・高栄養価・高糖度のトマトが栽培できるという。④栽培されたトマトは「おいしい花子」という名で販売されている。おいしいと犬山市民にも好評とのこと。⑤ハウスの外観。この中でおいしいトマトが育っている。

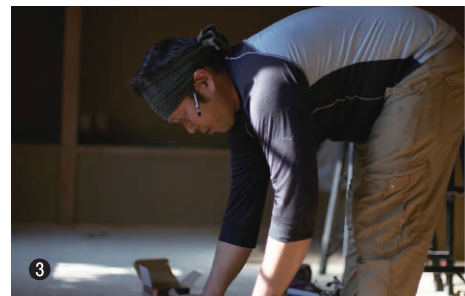
犬山市シルバー人材センター
常務理事 事務局長 堀場 秀樹 さん
シルバー世代の趣味ではなく、売れる
トマトを栽培していく。犬山市地域農
業活性化事業にも認められました。将
来的には補助金に頼ることなく、利益
をきちんとだして、シルバー人材活
用のモデルケースにしたいですね。
<http://www.sjc.ne.jp/inuyama/>



167

犬山市シルバー人材センター

夢を叶える過程にある。 そして成長は、

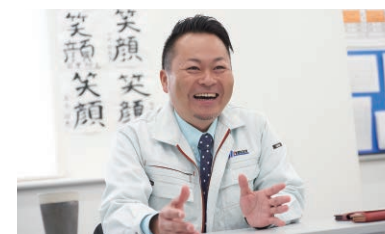


叶える喜びを、原動力に。

ミヤケン代表取締役の宮嶋さんは、熱い人である。20代に起業して、下請けの塗装工事から始めて、現在は住まいの設備工事、さらにリフォームまで手がけるようになった。その喜びを社員と分かち合うためにも、「社員に夢を持たせ、その実現を通して成長させたい」と言う。夢を描き、そのためには何をしなければならないのかを逆算して考え、いま、すべきことを導きだしていく。「真剣になれば夢は叶うことを実感してほしいんです」と宮嶋さんは言う。また、夢を託すこともある。リフォーム事業を強化するにあたり、任されたのが及川さん。「会社の夢が、私の夢になりました。ゼロからのスタートですが、セディアグループさんにも協力していただいて挑んでいます」と笑顔で言う。宮嶋さんはミヤケンを人間教育産業にしたいと言う。「成長こそ、人生を輝かせる糧。夢を描き、それを叶えることの充実感。達成したときの喜び。前向きな姿勢こそ、人間を大きく成長させるじゃないですか。やり甲斐も働き甲斐もそこにあるはず。社員に夢を描かせるのが私の仕事、みんなで叶えていくのが会社の役目です」。宮嶋さんの熱い想いが、社員をどんどん大きく成長させている。

左) 及川さんにリフォーム中の現場へ案内してもらった。木造の一戸建ての住まい。職人が黙々と確かな仕事を重ねていた。①壁を落としてみると思ってもかけない欠陥があることを発見。臨機応変な対応力もミヤケンの持ち味だ。②その日の作業の報告はその場で作成。及川さんはスピードを大切にしている。③信頼されているのが伝わるので裏切るとは言えないと協力会社の職人は言う。④職人との連携は密に取る。思わぬ出来事にはふたたびで対応する。

株式会社ミヤケン
代表取締役 宮嶋 祐介 さん
弊社は徹底してオープンにしています。社員の目標も、達成度もオープン。達成できればみんなで讃え、できなければみんなで課題を洗い出す。これからも夢を描き、成果を分かち合っていきたいですね。
■事業内容: 塗装工事、屋根工事、防水工事、足場工事、リフォーム工事、他
<http://www.m-kensou.com>



168

株式会社ミヤケン

SEDIA CSR STORY

共に、未来へ。
すべては生活インフラのために。



私たちも。

未来の笑顔のために 現在を取り組む。 セディアグループのCSRです。

この取り組みは、未来の笑顔につながっていくのか？
未来の笑顔のためには、現在、何をしなければいけないのか？
人や、地域や、社会の笑顔を広げることこそ、
セディアグループのCSR。
今回の「セディアCSRストーリー」では、
そんなセディアグループの未来への取り組みの一部をご紹介します。



未来の安心・安全 のために。

これまでの経験と教訓を、
これからの安心・安全に活かしています。

社員へ。

東日本大震災の経験と教訓を共有。
動画で撮影して社員へ配信。

そのとき、現場では何が起きていたのか？それを今後にどのように活かしていけばいいのか？当時の、石巻サービスセンターの所長やSE、社員の言葉を動画で記録。それを社員と共有して、大災害のときの心構えと行動を再確認する活動を行っています。



お客さまへ。

災害時の工事支援。
緊急時の全国災害支援体制を構築。

大災害のときに迅速な復旧工事に取りかかることができるように、セディアグループは全国管工事業協同組合連合会と「災害時における復旧活動の応援協力に係わる覚書」を締結。ライフライン復旧のための資材供給を円滑に行うことを目的とした協力体制を築いています。



メーカーさまと。

災害時の工事支援。
緊急時の資材供給システムを構築。

セディアグループは水道メーカー6社と緊急時の資材供給体制を整えています。それが「ライフライン・ネット」。大災害が発生するとセディアグループからメーカーへ復旧資材の確保と配送を連絡。全国管工事業協同組合連合会と協力しながら、届けられた資材をセディアグループが現場へ配送する体制を整えています。



みなさまと。

生活インフラの未来のために。
水について考える機会を提供。

セディアグループは毎年、水の日である8月1日に「水の働き『WATER WORKS』」を発行。すべての命の源である水について、さまざまな角度から特集した1冊です。お客さまだけでなく社員にも配布して、セディアグループの原点でもある水への意識を高めています。



子どもの未来のために。
体験学習の機会を提供しています。

生活インフラを支える仕事はどのようなものなのか？子どもたちへ全国のサービスセンターでの体験学習や出張授業などを展開。1日の仕事についてや、商品の荷揃えや配送、水の大切さや水道の仕組みを学ぶ機会を提供しています。



各種研修と自己啓発活動。
技能向上の研修や自己啓発活動も支援しています。

新入社員研修、新任所長研修など充実した研修制度の他にも、空調営業技術研修など、エンジニアリング力を高める研修も開催。また、社員の自己啓発活動も積極的に応援。学習する風土づくりに継続的に取り組んでいる企業を表彰する「JMAM通信教育優秀企業賞」も受賞しています。



チーム力をさらに強化。
東京2020大会をめざすアスリートが入社。

東京2020大会をめざすトップアスリートの川崎和也選手（陸上競技・十種競技）と竹内爽香選手（陸上競技・短距離）の2名が入社。全社一丸となって選手を応援することで、セディアグループのチーム力の向上とコミュニケーションの活性化をはかっています。



スポーツ支援。
オルカ鴨川FCなどサッカークラブを応援。

地域のスポーツ振興を通して、地域の人々の健康な暮らしを応援したい。セディアグループではそんな想いから、千葉県鴨川市に拠点を置く「オルカ鴨川FC」や、地域のサッカークラブを応援しています。



人と地域の成長 のために。

子どもたちや社員の未来のための取り組みも積極的に展開しています。

外部環境が大きく変化し、変化の速度がどんどん増すにあたって、これまで以上に、社員に「誇り」を、お客さまに「信頼」を、そしてすべてのステークホルダーの方に「将来」を感じていただきたいという想いを込め、次世代を担う社員が中心となって、セディアグループのあるべき姿を描くビジョンを策定しました。それが「SEDIA2030宣言」。すべてはお客さまやメーカーさまのマーケティングパートナーとして、そのつながりを強化し、業界や社会の未来をもっと魅力あふれるものにしていくための取り組みです。

セディアグループの未来へのビジョンです。

SEDIA
2030
宣言!!

チャレンジ!
トリプルスリー!!
SEDIA2030VISION 策定委員会

A SEDIA 2030 GOALS
私たちが考えるセディアグループの2030年の社会的使命
生活インフラをつなぐ「パイプ役」に。
セディアシステムを業界の成長エンジンへ

B SEDIA 2030 Mission
私たちが取り組むべき課題
・人が集まる魅力ある業界に
・マーケットの創造
・いつも新しいビジネスモデルを
・未来テクノロジーをもっと
・日本の生活インフラを世界に

C SEDIA 2030 Challenge
チャレンジ!トリプルスリー!!に挑戦します!
チャレンジ!トリプルスリー!!

1 社員のために
a) より良い職場環境づくり
b) 働き甲斐につながる制度整備
c) もっとコミュニケーション強化

2 お客さまのために
d) ステークホルダーと共にもっとダイレクトに
e) ワンストップでもっと広く深く
f) 流通ネットワークをもっと強く

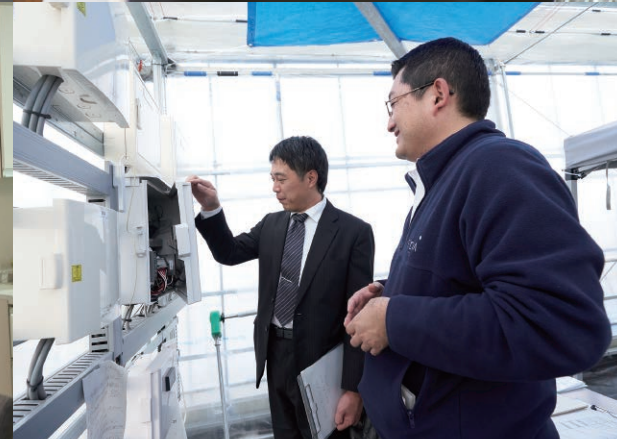
3 社会のために
g) セディア品質で世界とつながる
h) セディアブランドの信用と価値の向上
i) 地域と共生できる環境づくり

2030年のあるべき姿を描いて、セディアグループは、社員のため、お客さまのため、社会のために3つのチャレンジを行います。

そして、みなさまと共に。
セディアグループは未来への挑戦をつづけます。

生活インフラの未来 のために。

セディアグループは「生活インフラをつなぐパイプ役」としてのビジョンを描いています。



さらに、共に。 笑顔の取り組み、 続く。

社 名 渡辺パイプ株式会社
 本 社 〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10
 浜離宮パークサイドプレイス6階
 創 業 1953年12月8日
 代 表 者 代表取締役社長 渡辺 元
 資 本 金 100億9,918万4,000円
 年 商 2,850億円(グループ売上:2019年3月期予定)
 従 業 員 数 5,048名(グループ全体:2019年4月1日)
 業 務 内 容 【管工機材の販売】
 水道機材、衛生器具、給排水金具、配管材料、他
 【住宅設備機器の販売】
 空調機器、浄化槽、厨房機器、給湯機器、建材、他
 【電設資材の販売】
 電気工事材料、電線、照明器具、他
 【温室の設計・施工、販売】
 各種温室の設計・施工、各種グリーンハウス及び部品・資材、
 各種被覆資材、灌水装置、自動カーテン装置、天窓・側窓開閉装置、
 冷暖房装置、温室環境制御装置、養液栽培システム、他

グループ会社
 渡辺パイプ沖縄株式会社 株式会社セディアトランスポート
 株式会社ツギテの三共 株式会社エドビ
 三興電材株式会社 協伸株式会社
 キザイ産業株式会社 西日本グリーン販売株式会社
 梅津管材株式会社 みかど化工株式会社
 ヤナギ管材株式会社 Watanabe Pipe Vietnam Co.,Ltd.(WPVN)
 昭栄商事株式会社 江蘇米可多農膜發展有限公司
 明興電機株式会社 げんきビジネスサポート株式会社
 千成産業株式会社 株式会社セディアピーエス
 株式会社大成商会 株式会社アサマリゾート
 大野バルブ産業株式会社 NPO法人浅間山麓国際自然学校
 平和テクノ株式会社 公益財団法人セディア財団
 クサノ電材株式会社
 台湾渡邊建材股份有限公司
 株式会社WATER WORKS
 株式会社ワークサポート
 パイプシステム工業株式会社

